

競馬がますます  
楽しくなる

続 ファンにやさしい

# 馬学講座

第38回

## 見た目も個性のひとつ 馬の毛色の不思議に迫る ④

講師

公益財団法人  
ジャパン・スタッドブック・  
インターナショナル

辻野泰浩さん  
武山誠さん

案内人：辻谷秋人  
text by Akihito Tsujiya

「白毛馬は白」は正しいか

さて、いよいよ「全身真っ白ではないブチコがなぜ白毛とされているのか」という問題に話題が進んできた。今回お話しただくのは、公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル（JAIRS）の辻野泰浩さんと武山誠さんだ。

「たしかにブチコのような毛色は、サラブレッドのなかでは珍しい毛色です」と辻野さん。

ブチコは一見、重種や在来種の馬に見られる駁毛のようにみえるが、駁毛はサラブレッドの8種類の毛色、栗毛、栃栗毛、鹿毛、黒鹿毛、青鹿毛、青毛、芦毛、そして白毛の中に含まれていない。

ならば、かつて白毛が新しい毛色として出現したように、サラブレッドにも駁毛がついに現れたのではないか、などと素人は考えてしまうのだが、

「珍しくはあるのですが、ブチコのように有色の斑紋をもつ馬は日本にも海外にもいますし、サラブレッドではまったく

例がないというわけではないのです」（辻野さん）。

「そもそも白毛馬だからといって、必ずしも全身が真っ白というわけではないんです」と話してくれるのは武山さんだ。武山さんによれば、日本で最初の白毛馬であるハクタイユーにも、かなり大きな茶色の駁があったそうだ。

被毛の一部に原毛色と異なる色が出ることは、サラブレッドでも見られる。全体は栗毛だが、ところどころ色の濃い部分がある馬などがたまにいるが、その色が異なる部分を「異毛斑」と呼ぶ。ブチコやハクタイユーの駁がいわゆる異毛斑なのかどうかは分からないが、馬の毛色というのは実際にはかなりバリエーションに富んでいるのだ。サラブレッドの毛色は8つが基本だが、自然というのはいくらか複雑で、さらに面白いものを見せられる、ということだろう。

ブチコが白毛である理由

ここであらためて、JAIRSが規定している白毛の定義を確認しておこう。

被毛は全体がほとんど白色であり、わずかに有色の斑紋および長毛を有するものもある。眼が青色のものもある。皮膚はピンクで、一部に色素を有するものがある。芦毛との著しい違いは、生時にすでに全体が白色を呈していることである。

ちゃんと「わずかに有色の斑紋および長毛を有するものもある」とされている。最初の白毛馬である（つまり白毛という毛色の基準になった）ハクタイユーがそうだったのだから当たり前といえは当たり前なのだが、全身真っ白である必要は

ないのだ。「ブチコは白毛なの？」という疑問は、白毛と芦毛との違いを説明するとき用いられる「白毛は生まれたときから全身真っ白」という表現が作ったイメージと、現実の白毛馬とのギャップに起因しているのだろう。

そして、この規定に照らし合わせてブチコの毛色を判定すると、「体全体がほとんど白色であり」皮膚はピンクで「生時にすでに全体が白色を呈している」た、紛うことなき白毛馬である、ということになるわけである。

写真提供/JAIRS



日本で最初の白毛馬ハクタイユー。生後間もなく(写真上)は、駁が見られた